

祝・日本代表。ワールドカップサッカー・ベスト十六進出
彼らから大きな喜びとワクワクをもらいましたね。
二〇〇二年・秋・UTOカシミアもそろいました。

貴方のわがままを承ります。

UTOのカシミアは全て日本製だからこそ可能なんです。

自分だけの配色が欲しかった。この衿がもっと細かつたらいいのに。

私の袖は五センチ短くして欲しい。そんな要望をUTOにぶつけてみませんか。

私達の自慢は一枚でも貴方の「要望のセーターを作つて差し上げる」ことです。

もう、これは殆どオーダーと同じじ。

しかも追加料金は千円から三千円程度。

【カシミアニット・フェア】

カシミアニット受注会を開催しませんか？
たまには、一週間ぐらいお店を一新して。

リトロのカシミア全商品を対象に貸し出し。

ご希望があればディスプレイ用の小物もお貸
しします。
UTOの葉書も提供させて戴きます。

条件は

『売上仕入・販売ノルマなし』
『運送料はお互いの元払い』

注文頂いた商品のお渡しは九月ごろです。

サイズ、色などの変更も承ります。

我々は評論家じゃないんだから、どんなに売
れない正しい理由を説明できても売上が上
がるわけではないですね。やらなきやゼロなんですから。

【今年はミニ季】

セーターは、一色、二柄、三作りと言われま
すが、想像してみてください。

赤・オレンジ・モカを擦り合わせた深い色合
いの贅沢なセーターを。

ふんわりたっぷり 両畦 (りょうあぜ) シリーズ



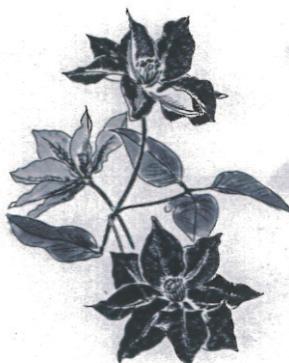
長袖丸P.O	¥36,000
長袖V.P.O	¥36,000
長袖丸C.D (ファスナー付)	¥45,000
ベスト (ファスナー付)	¥38,000
ロング丸C.D	¥75,000
ロングV.C.D	¥75,000

高価なカシミアを両畦で贅沢に使いました。
普段着でこんなカシミアがあったら幸せですね。カシミア専門メーカーならではのラインアップ。

UTOのニューベーシックです。

もちろん他にも、ブルー系・グリーン系、爽やかなパステルのミックス等々、ニットならではの色を楽しんでください。

実際の色と肌触りを是非手にとつて感じてください。



てっせん

一味ちがったカシミア・杢 (もく) カシミア



ミニ・長袖丸P.O	¥42,000,-
ミニ・長袖V.P.O	¥42,000,-
ミニ・襟付長袖	¥45,000,-
双糸・長袖丸P.O	¥30,000,-
双糸・長袖ハイカ	¥30,000,-

贅沢なカシミアの違う色の糸を撚り合わせて杢糸を作りました。

無地とは一味違う新鮮さ、カシミアならではの独特的な発色がお洒落。

コード刺繡付コート (ミンクボン天付)



No. 1140 ¥150,000,-

高価なカシミアを贅沢に使った迫力満点なのにとっても軽い、カシミアならではのコートです。背中のコード刺繡とミンクのボン天がポイントです。

私が青山通りの紀ノ国屋の近くに始めて事務所を開いたのが今から約二七〇八年、以来この界隈との行き来が続き岡本太郎さんを何回も見かけました。岡本太郎さんが亡くなったのは六年前の一九九六年八四歳。それまで戦後ずっとここに住んでおられたそうですから時々姿を見かけたのも頷けます。

岡本太郎さんは、6年前の一九九六年八四歳。それまで戦後ずっとここに住んでおられたそうですから時々姿を見かけたのも頷けます。

私が青山通りの紀ノ国屋の近くに始めて事務所を開いたのが今から約二七〇八年、以来この界隈との行き来が続き岡本太郎さんを何回も見かけました。岡本太郎さんは亡くなつたのは六年前の一九九六年八四歳。それまで戦後ずっとここに住んでおられたそうですから時々姿を見かけたのも頷けます。

私が青山通りの紀ノ国屋の近くに始めて事務所を開いたのが今から約二七〇八年、以来この界隈との行き来が続き岡本太郎さんを何回も見かけました。岡本太郎さんは亡くなつたことは、記念館の中には殆ど入らずカフェエドまで、庭を眺めるぐらいです。

この庭には大きなバナナが植えられ、彫刻の試作やレプリカが所狭しと置かれています。その中に沢山の角の生えた鐘があります。ちょうど田舎の火の見櫓に有る半鐘ぐらの大きさです。

五月末頃TVの『何でも鑑定団』に、「ここにもある沢山の角が生えた釣鐘が出ていました。石原東京都知事が持っているものらしく息子の石原正純氏が出品したものでした。すぐにある（岡本太郎記念館）にあるあの鐘だと気付きました。と言うのも最初にここへ行つたとき庭にあるこの鐘をたたいたことがあったからです。

この鐘のいきさつを館長さんが説明されていますが、あの値段を聞いて以来、「大丈夫かな？」などと誰も持つていません。今日は庭先に置いてあります。

【南青山界隈】
岡本太郎記念館



* ニットの話 * (四)

空気が暖かさの秘密

カシミアの魅力はなんと言つてもあの暖かくふんわりとした柔らかさと軽さですね。なぜカシミアはあんなにふんわりと柔らかく暖かいのでしょうか?

ちょっと堅い話で恐縮ですが、暖かさを保つには外の冷たい空気が我々の肌の熱を奪うのを防ぐことと、自分の体温を逃がさないことです、その壁の役目をするのが、我々の着ている衣服なんです。

この衣服は外気からの熱を遮断したり肌が傷つくのを守るのは当然ですが、動きやすいとか、軽いとか、適度に熱を交換するとか、色んな機能が要求されます。その総合評価が『着心地が良い』ということでしょうね。

空気が動くと(風のように)肌の揮発を促し寒く感じるのですが、動かない空気は断熱効果が高いんです。これを熱伝導が悪いと言います。

例えばローソクの火に接した鉄の火箸(火箸は鉄だから)はすぐ熱くな長さが三十分も離れて握っている手が熱くなってしまいます。

これはローソクの炎の熱が火箸という鉄を通って熱が伝導してきたからですが、火箸が無く手がローソクの炎から三十分も離れていればちっとも熱くありません。

『あつたか』と感じるには衣服に如何に熱伝導率の低い空気を沢山蓄えるかが一番の課題です。



一般的に動物の中ではカシミアの毛が一番細いんです。(周りくびくなつてしましましたがこれが言いたかたつたんです)細いということは当然軽い、柔らかい、織細といふことが理解できますね。

カシミアの毛の太さは十三ミクロンから十七ミクロン。モヘアが三十から五十ミクロン。羊毛は二〇ミクロン前後ですから如何にカシミアが細いがお分かりでしょう。

一般にカシミアが一番細いと言いましたが厳密にはカシミアの毛は地球上で二番目に細いんです。最も細い毛を持つ動物は南米アンデスの山岳地帯に住む『ビキューナ』という動物。

ビキューナは今ではワシントン条約で国際的に保護されている希少動物なのでこのビキューナの毛は殆ど採れません。

ちなみにビキューナは七ミクロンから十八ミクロン。

以前、三越で数百万円のビキューナのスーツが売れたとか売れなかつたとか。

この頃は極少量ですが、特別に許可を受けて収穫をして製品にしているものもあるようですが、いづれもビジネスにはなつていいのが現状で、一般に手に入るものはありません。



左中継話・ニット屋のたわごと

サッカー維新
10年



前回のフランス大会への初出場まで一度も本大会に出たこともなかったサッカー弱小国日本が予選リーグをトップ通過。過去の実力を知つていれば知つていてるほど強豪国の仲間入りを果たし勝つことの喜びがひとしお。古くからのサッカーファンはただただ驚き、じっくりと喜びを噛みしめています。

サッカーに興味を持ったのは二十四五年前にオランダを訪れたとき。丁度オランダがワールドカップの決勝に進出して、國中がお祭り騒ぎをしていました。どうしてそんなに熱狂するのか?自分の知つてているサッカーとどう違うのか不思議でした。がその夜ホテルで観た世界強豪のスピード、パワー、テクニックとサポートの盛り上がりにすっかりサッカーに嵌まってしまいました。

しかし、日本に帰つて見るサッカーはいかにも蹴球いう体育競技で、同じルールの全く違うスポーツで、全然ワクワクしません。以来じみくにファンをやってきました。

それが一変したのがJリーグ発足。これぞ『サッカー維新』でした。これを機に世界の有力選手が来日。盛は過ぎたと言つても、あのジーコが、ワールドカップで得点王とフェアプレイ賞を取つたりネガーも、ストイコピッチも、リトルスキーも日本のチームのメンバートーとしてプレイしてます。夢のよう。時代が来た。

あれからたつた十年で日本のサッカーはグローバルスタンダードになって、素晴らしい進歩を遂げました。

夢のまた夢だったワールドカップの本大会。

サッカー維新二年、あと一息まで進んだドーハ悲劇。その四年後には一勝も出来ず予選リーグ敗退したけどフランス大会に初出場。これを切つ掛けに中田ヒデがイタリア・セリエAで大活躍。そして日韓共同開催の今年は、なんと予選リーグトップ通過、ベスト十六進出。

『ルールは解らないけど、飛び切り男前の男達が素晴らしいプレイを見せてくれる』こんな迫力のある試合を観たら女性でなくとも虜になるのは当たり前ですね。

『ルールは解らないけど、飛び切り男前の男達が素晴らしいプレイを見せてくれる』こんな迫力のある試合を観たら女性でなくとも虜になるのは当たり前ですね。

ミーハーでもOK、サッカーの裾野が広がつて欲しい。

来シーズンの海外のリーグに何人の日本人が活躍するのか、またこれで世界的にもJリーグの評価が上がり、今まで以上の有力な外国人プレイヤーが日本でプレイしてくれるか今から楽しみです。

細いほど沢山の空気を抱えることが出来る事は理解いただけるでしょう。

インドのボンベイはこの頃はムンバイと名前が変わりましたが、かつては英國のインド支配の中心地で、東印度会社のインド本社が置かれ、ヨーロッパ的な建物がありインド最大の街で、日本で言えばさすめ大阪という商業都市です。

タジマハール ホテル

世界のホテルを旅する(四)
元 旅行屋のお勧め ムンバイ・インド

初めて訪れた一九七五年。驚いたことにホテルの入り口に繩が張り巡らされている周りを大勢の地元の人たちがぐるりと取り巻いて出入りする人を見ているんです。まるでグラミーショーに出席するスターを見物に来たような感覚です。

ドアマンに『何事か?』と尋ねると、『毎日のことです』とこももなげに答えます。こんな光景が毎日繰り広げられているそうですが、見られるこつちはそんな経験はありませんから戸惑つてしまっています。

本来はみられるに相応しい人達が泊まつてゐるんでしよう。ただ僕みたいな貧乏人の若造が目的でないことは確かですが、なぜなら私はインド航空のエンジントラブルで全額航空会社持ちで泊まる」とことになつたんですから。

